

平成十六年度飼料増産推進に関する講演会を開催

「草地と畜産経営」について

肉用牛の生産を振興するためには肉用牛の飼料となる牧草の生産拡大や飼養管理技術の一層の向上が重要な課題となっています。

このため、飼料増産推進に関する講演会を平成十三年度から各地域で開催しており、去る十一月十五日に栗国村で講演会を開催しました。



栗国村の草地



川本 康博教授

次に、沖縄県畜産試験場の玉城政信室長から「肉用牛経営」について、「雌牛の発情の見分け方」や「子牛のえさの与え方」を栗国村における肉用牛の飼養

講演会は、地域の肉用牛農家・畜産関係者が出席して開催され、最初に琉球大学農学部の中川康博教授から「草地の効率的な利用と管理」をテーマに「質・量とも高い牧草の生産方法や良質の発酵粗飼料の生産方法」や「放牧のすすめ（牛にも仕事をしてもらう）」について説明が行われました。

管理の事例を参考にしながら、方言を交えてのユーモラスな説明が行なわれ、出席者全員が熱心に耳を傾けていました。



玉城 政信室長

講演会終了後、村営牧場に場所を移して、実際に牛や牧草の状況を見ながら、牛の飼養管理や牧草地の肥培管理等について和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。

この中で玉城室長から「子牛の段階で栄養価の高い良質の牧草を十分に与えないと成長に必要な栄養等が不足して胴回り（胃）



講演会の風景

が大きくならず、頭でっかちで体のバランスの悪い牛になること」、「敷料を入れすぎると見た目はいいが、ふん尿が乾燥せず菌が発生しやすい状態となり、その結果、子牛が下痢を起こしやすい状況になる」など、いろいろな説明がありました。また、川本教授からは、「良質な牧草づくりや良好な牧草地の管理方法」、「牧草の生育状況から肉用牛の放牧適期や収穫適期を見分ける方法」などについて説明がありました。

栗国村はこれまで肉用牛の生産に最も重要な飼料基盤の整備に積極的に取り組んできており、その結果、肉用牛が農業産出額において第一位を占めるようになりました。



現地検討会の風景